

SKYMENU 活用授業 実践レポート

名前	久保田 智子	学校名	神戸市立若草小学校
実施学年	おもに小学3年～6年生	教科	図画工作科
題材名	「今、体育館は美術館だ!」じぶんで進める、かんしょう活動～全校図工展～		

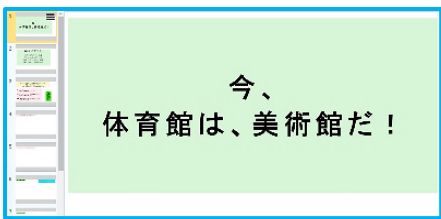
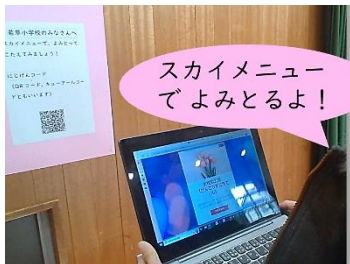
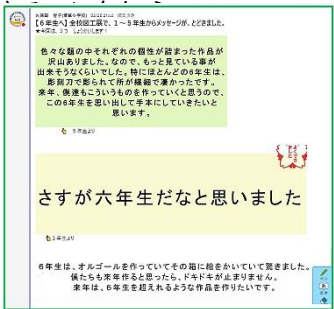
《学びを深めたいポイント》

図画工作科（以下、図工）における主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を行う上で、「深い学び」のキーポイントになるのは、教科・領域それぞれの「見方・考え方」である。図工における「造形的な見方・考え方」は、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」である。（文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』平成29年6月）図工での「A 表現」と「B 鑑賞」のうち、本実践の「鑑賞の活動」においても、この「深い学び」を実現するために3つの視点を設定した。1つめは、鑑賞対象となる作品が自分たちの作品であることから、児童にとって単に「完成した結果」として捉えることなく、完成までの過程も含めて鑑賞できるようにすること。2つめは、うまさをきそう見方に終始せず、展示会場で自分の作品の撮影や振り返りを行ったり、全校生に互いのよさやちがいなどの気づきをメッセージとして送ったりすることで、見方や感じ方を深めることができるようにすること。3つめは、自分のめあてを設定させ、学習者主体でアクティブに鑑賞活動を行い、新たな発見や価値を見出す創造的な学びにするという点であった。それらは特別な手立てをしなくても、3年生以上の図工の授業で、児童に端末の活用を委ね、自分のタイミングで記録・振り返りをし、学びを可視化して蓄積するという主体的な活動を行ってきた延長線上にあると考えた。また、互いの制作の過程をグループワークで見合ったり、クラス全体で共有・鑑賞したりするといった対話的な学びも日常的に行っており、体育館でも同様の子どもの姿が見られた。

《SKYMENU 活用のポイント》

- ①「鑑賞カード（鑑賞マナーを含めた複数枚で構成）」を、発表ノートで作成し、学習者に配布しておく。これまでは発達段階に応じて、目標を設定し体裁をかえて作成、学年別に印刷していた。配付・回収する労力も省けた。フォーマットした発表ノートだが、児童が自由に使えるように工夫している。児童は、自分の端末に届いたカラーの「鑑賞カード」をもとに、自分で考えて行動するというわくわく感や自覚が生まれ、いきいきと活動できる。
- ②体育館（美術館）では、鉛筆や消しゴムを用いることを推奨したくないし、消せない筆記具を使わせて児童に余計なプレッシャーを与えないようにする。鉛筆で書くことに抵抗感のある児童への配慮もできる。
- ③引率をお願いした担任にも、発表ノートを参照すれば活動の流れがわかり、児童主導で鑑賞活動が行える。
- ④じっくりと観合ったあと、図工室で記録してきた最後の仕上げとして、自分の作品の撮影と振り返りを入力させた。いつも通り、児童自らのタイミングで行う。また、立体作品の撮影には、図工の授業でいつも行っている「色画用紙を友達と協力して、作品の背景用に使う」を、教師の指示なしで実行できた。
- ⑤全校生への感想を鑑賞カードに入力する。ここでも予想通り、児童は自らの判断で人数や中身を考えて発表ノートを増やして作成していた。各自で発表ノートを提出させ、体育館でも、互いのメッセージを共有させる。他学年・他クラス・先生方にも、Teamsの図工チャンネルで知らせる。授業時間以外でも、学び続けることができた。
- ⑥Teams、Forms（全校生、地域の人へのアンケート）の活用を組み合わせることで、授業後にも活用できる。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1.「今、体育館は美術館だ!」を読み、鑑賞マナーや学習の進め方を確認し、自分のめあてを決める。 		・授業前から Teams の図工チャンネルで知らせておき、登校後、朝のすきま時間などに、発表ノートでの「鑑賞カード」で流れを予習させておく。 ・しかし、この活動も児童に委ねておく。 ・鑑賞マナーのらん、チェックを入れさせて鑑賞をスタート。
展開 すべて児童のタイミングで行う	2.自分のめあてをもち、自分のペースで、じっくりと鑑賞する。 3.鑑賞を終えたら、自分の作品の最終撮影を行う。 4.自分の最終の振り返りを入力する。 5.全校生へメッセージを送る。 6.鑑賞カードを提出する。 7.全校生へのアンケート(Forms)に回答し送信する。	  	・図工室で行っている通り、友達と協力して撮影を行う。 ・自分の作品の見どころがわかるような撮影になっているか画面一覧で確認し、適宜、枚数、角度、トリミングなど、アドバイスをする。 ・端末で残り時間を確認させ、同じ学年や他の学年へメッセージを送るページを活用して思いを入力させていく。 ・人数や枚数は、児童に委ねる。自由に発表ノートを追加させる。
まとめ	8.提出箱で、友達の作品や振り返りを共有する。 9.メッセージを読み合う。 		・自主的に発表ノートを提出させる。提出箱の中身を確認できるように設定しておく。 ・各自の振り返りやメッセージを見合い、自由に対話させる。(特別に声かけしない) ・授業内にできなくても、いつも通り、教室や自宅でも鑑賞や確認ができることを伝える。
	発表ノートやメッセージを読んで、近くの友達と自由に話してみよう。授業が終わってからも、〇日までは鑑賞できるよ。学びを深めて、次の図工に活かしていこう!		
	10.授業後に、Forms で見合った感想を入力し、送信させておく。 ※発表ノートの提出箱や Teams の図工チャンネルで全校生の学びの様子やメッセージを読み取って鑑賞活動をさらに深める。		

《実践を振り返って》

①「児童による端末での撮影や振り返りが日常になってよかった!」と改めて思いました。専科の私は、実際の児童の端末操作の様子を1週間に一度しか見れませんし、各クラスの活用に差が生じていたり、2年前は操作することだけに時間がかかることもありました。でもすぐに、児童が自ら学び、探究し、次に活かすといった図工の学びのプロセスとぴったりに合っていることに気づきました。特別な単元(題材)の時だけ、しかも教師主導で使わせているようでは、図工の学びを深めるための1つの道具にはなりません。この2年間で「いつ、どれぐらい、何に使うのか」を児童に判断させ、自律的に使えるようになっていたからこそ、本実践のような、図工室以外の場所での活用、児童が自分で考えて鑑賞活動を能動的に行っていく学びが実現できました。いまや端末は、児童の創造性をも育む必須アイテムだと感じています。

②鑑賞日に欠席していた児童がいました。児童は、授業で学び(制作)の過程を端末に残してきましたが、私は体育館に飾っていた様子を撮影し、SKYMENU Cloudで、その児童に写真を送りました。すると、児童は後日きちんと「鑑賞カード」を完成させ提出していました。他にも「締め切り後の提出マーク」(下図)がつきます。私は、思う存分ほめてフィードバック(添削)して返却しました。「図工の学びを楽しんでくれているな」とも思いますし、クラウドのなせるわざだと実感しています。こんなことが、普通になっている喜びも感じています。



本実践後に、この2年間、端末で記録・振り返りを行ってきた感想を5年生の児童にFormで自由記述させました。少し紹介します。(現在、このような児童の記述内容やアンケートの結果から「工作における自己効力感と、端末で記録・振り返りを行うこととの間に、どんな関係があるのか」を調査しています。)

- ・パソコンに書くようになって、**前よりどれだけ進んだのか**よくわかっていいと思う。パソコンに、**めあて**を書くことによって目標ができ、完成の目標が高くなって良い作品づくりが出来たと思う。写真を見ると、こんなに作ることが出来たんだなあって思う。写真を見て、難しいけど**頑張った**なあって思う。
- ・パソコンだと、じぶんもみんなが**取り組みやすくて**良いと思った。この2年間で、いろいろな**友達**といろいろなことを話して、いろいろなことを思いつきました。だから来年もいろいろを大切にしていきたいです。
- ・友達と写真を共有することが出来たから、**互いに学ぶとこと**が出来たり、友達はこう思っているんだと思うようになった。こんな作品を作ったと思わせる。完成まで、こんな**道のりだったんだ**ということも思わせる。
- ・じぶんが残したい時や作品が完成した時、振り返りを書くと、とても**スッキリ**する。
- ・次の作品は、ここまでしようと考えたり、いろいろ工夫したりしようと思うようになった。
- ・前より**私しかない作品作り**が出来たなと思いました。じぶんのめあてがあったから作りたい作品を作ることが出来るようになった。
- ・パソコンに**めあて**を書くと、こうしようと、想像が早くわいてくるようになった。パソコンに振り返りを書くと、**こうしてよかった**と思うようになった。**もっとここを工夫**出来たんじゃないかなとか、次はこんな風にしてみようと思うようになった。めあてをしっかりと考えるようになり、パソコンに残すようになって、出来た時の**達成感**が大きくなった。
- ・**いつでもプレゼン**が出来るようになった。**家**でも見せることが出来るようになった。先生から返事をもらえて、ほめられてうれしかった。家でも振り返りが出来るのでとても便利。